Hybrid Piano

ピアノ音源ユニット

HT-70

取扱説明書

for KHP-2000/5000

KORG

ちきゅうにやさしい

ピアノを活用
消音ユニット

エコマーク認定番号
第 11148002 号

USB

Ⓙ③

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の２つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

記号	説明
⚠	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
🛇	⦸記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
●	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **AC アダプターの電源コードのプラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込む。**
- **AC アダプターの電源コードのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、AC　アダプターの電源コードのプラグへ容易に手が届くようにする。**
- **次のような場合には、直ちに電源を切って AC アダプターの電源コードのプラグをコンセントから抜く。**
  ○AC アダプター、電源コードやプラグが破損したとき
  ○異物が内部に入ったとき
  ○製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、（株）消音ピアノサービスへ依頼してください。
- **本製品を分解したり改造したりしない。**
- **修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。**
- **AC　アダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものを乗せない。**
  コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**
- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**
- **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に、花瓶のような 液体が入ったものを置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**
- **濡れた手で本製品を使用しない。**

⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
  本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。**
- **長時間使用しないときは、電源コードをコンセントから抜く。**
- **付属の AC アダプターや電源コードは他の電気機器で使用しない。**
  付属のACアダプターや電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

本製品の電源をオフにすると、パラメーターが工場出荷時の設定に戻るものがあります。
操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめコンピューター等へバックアップをしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

目次

取扱説明書の表記について

スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[　　]で括っています。

(☞p. ■■): 参照ページを表します。

SP: スピーカ付きモデルの機能です。

: 使用時の注意を表します。

MeMO: 使用時のヒントなどの内容を表します。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。

＊すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

はじめに

おもな特長

● **多彩な音色** （☞p.10）

コンサート・グランド・ピアノ音色をはじめとした、コルグ独自の高品位な8種類の音色が選択できます。
また、ステレオ・サンプリング音源を搭載していますので、コンサート・グランド・ピアノの豊かな表現力だけでなく、心地よい広がりのある音色が楽しめます。

● **音色デモ10曲を収録** （☞p.9）

各音色の特長を生かしたデモ演奏を、合計10曲内蔵しています。

● **エフェクト機能** （☞p.11、p.18）

音色ごとに3種類の深さを選択できる、豊かな響きを与えるリバーブと、音色の明るさを選択できるブリリアンスの、2つのエフェクトを搭載しています。

● **ペダル効果** （☞p.10）

ピアノの3つのペダルを使うことで、消音中でも本機の音色にダンパー、ソステヌート、ソフトの効果をかけることができます。

● **メトロノーム機能** （☞p.12）

拍子、テンポ、音量やメトロノーム音をかえることができ、さらにアクセント音にベル音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

● **タッチ･コントロール機能** （☞p.19）

ピアノで一番大切な鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、3種類の中から選ぶことができます。

● **音程の調節** （☞p.18、p.19）

ピッチ・コントロール機能により音程の微調整をしたり、他の楽器や曲にキー（調）が合わせられないとき、トランスポーズ機能により簡単にキーを変更（移調）して演奏することができます。

● **音律** （☞p.18）

平均律の他に、2種類の古典音律（ヴェルクマイスター、キルンベルガー）を選択することによって、古典音楽などの再現も可能になります。

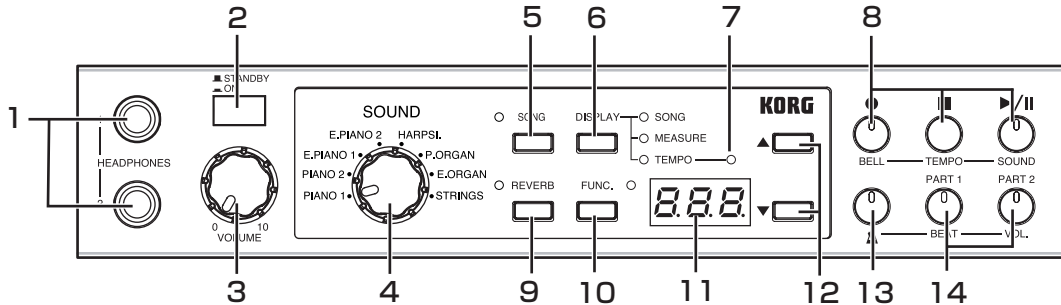
● **レコーダー機能** （☞p.15）

自分の演奏をそのまま録音、再生できる2パートのレコーダーを内蔵しています。

● **接続端子** （☞p.6、p.20、p.22）

オーディオ機器や他のMIDI 機器、コンピューターなどを接続できるLINE OUT、MIDI、USB端子を装備しています。

各部の名称とその機能

操作面

1.ヘッドホン端子
標準プラグのヘッドホンを、2 つまで接続することができます。

スピーカー付きモデルの場合、ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーからは音が出ません。

2. [POWER] スイッチ
電源のオン（マルチ・ディスプレイ点灯）とオフ（STAND BY）を切りかえます。押すたびにオン、オフを繰り返します。

本機はオフ（STAND BY）のときでも、多少の待機電力を消費します。電源を完全に切るときには、AC アダプターの電源コードをコンセントから抜いてください。

3. [VOLUME] ツマミ
音量ツマミです。ヘッドホン、ライン・アウト端子から出る音量をコントロールします（☞p.8）。

スピーカー付きモデルの場合、スピーカーから出力される音量もコントロールします。

4.音色セレクター
音色を選びます（☞p.10）。
PIANO（ピアノ）1、2、E.PIANO（エレクトリック・ピアノ）1、2、HARPSI.（ハープシコード)、P.ORGAN（パイプ·オルガン)、E.ORGAN（エレクトリック・オルガン）、STRINGS（ストリングス）の 8 音色から選択します。

5. [SONG] スイッチ、LED
再生、録音するソングを選択するときに使用します。また、音色紹介のデモ演奏を聴くときに、[REVERB] スイッチと一緒に使用します（☞p.9)。

6. [DISPLAY] スイッチ、LED
スイッチを押して、マルチ・ディスプレイに表示される内容を切りかえます。
表示されている内容にあわせて、スイッチ横の LED が点灯します。
各種設定を行うファンクション· モードのときは、これを押すことで設定項目を切りかえます（☞p.26)。

7. テンポ LED
ソングの再生中や、録音中にテンポに合わせて点滅します。

8. レコーダー・セクション
演奏の録音/再生、一時停止などをします(☞p.15)。
[♫] スイッチが、点滅しているときはベル音、テンポやメトロノーム音色を設定するスイッチになります。

9. [REVERB] スイッチ、LED
音に残響を加える設定をするときに使用します(☞p.11)。
また、音色紹介のデモ演奏を聴くときに、[SONG] スイッチと一緒に使用します（☞p.9)。

10. [FUNC.] スイッチ、LED
ソングの保存、消去、音律や MIDI などの各種設定を行うファンクション·モードに入ります(☞p.26)。

11.マルチ・ディスプレイ
［DISPLAY］スイッチの LED の点灯に合わせて、メトロノーム、レコーダーのテンポや録音したソングの番号、小節番号などを表示します。

表示例

ソング演奏

ソング番号
SONG / MEASURE / TEMPO 025

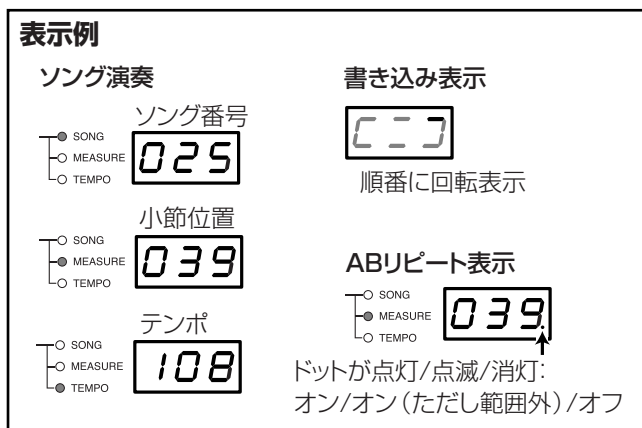
小節位置
SONG / MEASURE / TEMPO 039

テンポ
SONG / MEASURE / TEMPO 108

書き込み表示

順番に回転表示

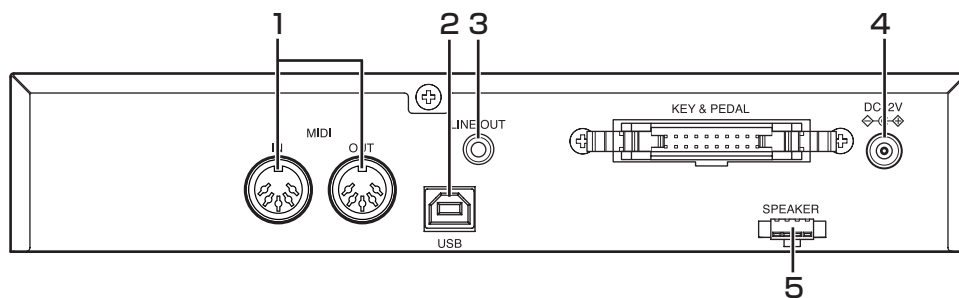
ABリピート表示
SONG / MEASURE / TEMPO 039.

ドットが点灯/点滅/消灯：
オン/オン（ただし範囲外）/オフ

12.[▲]、[▼］スイッチ
メトロノーム、レコーダーのテンポの値調整、各種設定の選択などに使用します。

13.[］スイッチ
メトロノームのスタート / ストップをします。長押しすると、メトロノームの各種設定をすることができます（☞p.12)。

14.[PART 1]、[PART 2］スイッチ
録音、再生時のパートの選択に使用します（☞p.15)。
［ ］スイッチが点滅しているときは、メトロノーム音量や拍子を設定するスイッチになります。

裏面

1 2 3 4 5
MIDI IN OUT
USB
LINE OUT
KEY & PEDAL
DC 12V
SPEAKER

1.MIDI 端子
シンセサイザー、シーケンサー、リズム・マシーンなどの MIDI 機器と接続し、情報を交換するための端子です（☞p.20)。

IN
MIDI 情報を受信します。本機をコントロールする外部 MIDI 機器の MIDI OUT と接続します。

OUT
MIDI 情報を送信します。本機からコントロールする外部 MIDI 機器の MIDI IN と接続します。

2.USB 端子
コンピューターなどとUSBケーブルで直接接続し、データのやりとりをするための端子です（☞p.22)。

3.LINE OUT（ライン・アウト）端子
アンプ付きスピーカーなどのインプット端子につないで音を出したり、録音機器などにつなぐときに使用する端子です。ステレオ・ミニプラグのケーブルを使用します。

各接続は必ず電源をオフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、本機や接続した機器などを破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。

接続するケーブルは別売品です。接続する機器に合わせて市販品をお求めください。

4.DC12V 端子
付属の AC アダプターを接続します（☞p.7)。

5.スピーカー端子：
専用スピーカーを接続する端子です。

準備とデモ・ソング

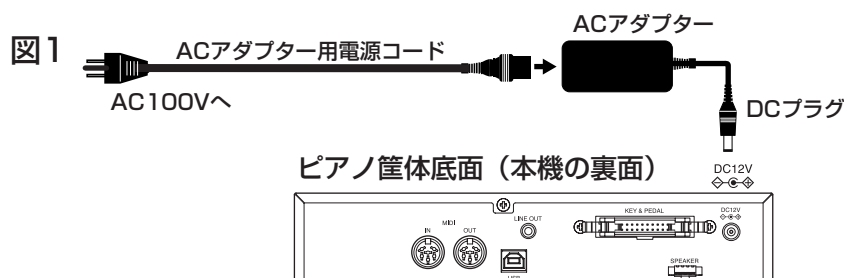
演奏する前の準備

電源の接続

1. 本機の電源がオフになっていることを確認します。

2. 付属の AC アダプターに AC アダプター用電源コードを取付け、DC プラグを本体の DC12V 端子に接続します。

図1

ACアダプター用電源コード
AC100Vへ
ACアダプター
DCプラグ
ピアノ筐体底面（本機の裏面）
DC12V

AC アダプターは必ず付属のものをお使いください。他の AC アダプターを使用した場合、故障などの原因となります。

3. AC アダプター用電源コードのプラグには、アース端子が付いています。感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行って、コンセントに接続します。

電源は必ず AC100V を使用してください。

接地極付きコンセントに接続する場合（図 2）

接地極付きコンセントにACアダプター用電源コードのプラグをそのまま差し込んでください。

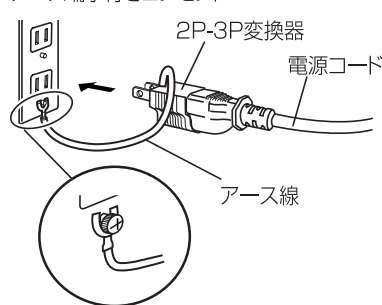
アース端子付きコンセントに接続する場合（図 3）

AC アダプター用電源コードのプラグに、2P-3P 変換器を取り付けます。そして、コンセントのアース端子にアース線を接続し、2P-3P 変換器のプラグを差し込みます。

アース接続は、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。また、アース接続を外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

2P-3P 変換器のアース線の U 字端子にカバーが付いている場合は、カバーをはずしてください。

図2
接地極付きコンセント
電源コード

図3
アース端子付きコンセント
2P-3P変換器
電源コード
アース線

アコースティック・ピアノの音を消すときは

アコースティック・ピアノの音を消すための消音ユニットは、電動タイプと手動タイプがあります。図 4-1 または図 4-2 以外のものが取り付けられている場合の操作方法は、取付認定技術者、または販売店に問い合わせてください。

MeMO 本機は消音の有無に関わらず、すべての機能を使うことができます。消音しない場合の利用例は、25 ページ「消音しない利用例」をご覧ください。

消音していても和音を強く弾いた場合は、アコースティック・ピアノの音が漏れることがあります。

消音ユニットが電動の場合

図 4-1 のピアノ底面の消音ユニットのスイッチを押して、STOP（MUTING BAR のLED が点灯）にします。
スイッチを押して、FREE（MUTING BAR の LED が消灯）にすると、通常のアコースティック・ピアノとして演奏できます。

図4-1

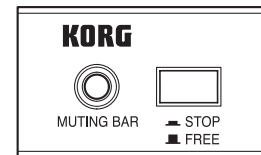
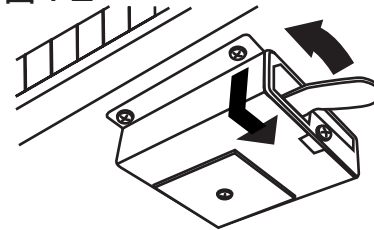
演奏中に、このスイッチの操作をしないでください。

消音ユニットが手動の場合

図 4-2 のようにピアノ底面の消音ユニットのレバーを手前に引き、下げてロックします。レバーを元に戻すと、通常のアコースティック・ピアノの演奏ができます。

図4-2

演奏中に、このレバーの操作をしないでください。

ヘッドホンを使うときは

音源ユニットの前面にあるヘッドホン端子（5 ページ）に、ステレオ・ヘッドホンのプラグ（標準プラグ）を差し込みます。

ヘッドホン端子は 2 つありますので、2 人で演奏を楽しむことができます。

スピーカー付きモデルの場合、ヘッドホンを差し込むと本機の付属スピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときなどに、ヘッドホンをお使いください。

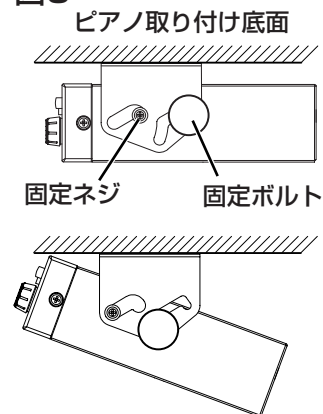
「ミニ→標準」の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。

ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

操作面が見にくいときは

本体の左右横に固定ネジと固定ボルトがついています。
固定ネジと固定ボルトを緩めると、本体の取り付け角度が変更でき、使い易い角度に調整することができます。

図5

角度を調整した後は、緩めた固定ネジと固定ボルト必ず締めてください。

電源をオンにする

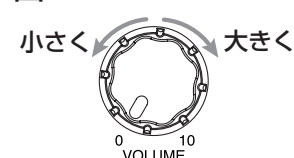
［POWER］スイッチを押してオンにします。
マルチ・ディスプレイが点灯します。
オフにするときは、もう一度［POWER］スイッチを押します。
マルチ・ディスプレイが消灯します。

電源をオフにすると、記憶できる設定以外はすべて工場出荷時の設定に戻ります。ただし、レコーダー機能で録音した本体メモリー内の演奏データは消えません。

音量の調節

［VOLUME］ツマミを回して音量を調整します（図 6 参照）。ヘッドホン端子とアウト・プット端子から出力される音量をコントロールします。音量を小さくするときは左側へ、大きくするときは右側へツマミを回します。

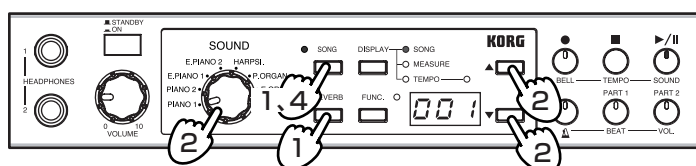
図6

スピーカー付きモデルの場合、スピーカーから出力される音量もコントロールします。また、音量を最大にすると、音色によってはスピーカーから出る音が歪む場合があります。

デモ・ソングの演奏

本機には、高品位な 8 種類の音色を使った音色デモが 10 曲入っています。

音色デモを聴く

音色デモ一覧

No.	表示	音色	曲名	作者
1	PIANO1	ピアノ 1	ラ・カンパネラ	F.Liszt
2	PIANO1	ピアノ 1	The Path Of Truth	Jordan Rudess
3	PIANO1	ピアノ 1	ラプソディ・イン・ブルー	G.Gershwin
4	PIANO2	ピアノ 2	Someone To Watch Over Me	G.Gershwin
5	E.PIANO1	エレクトリック・ピアノ 1	Ramble	M.Sakaguchi
6	E.PIANO2	エレクトリック・ピアノ 2	KORG オリジナル	KORG
7	HARPSI.	ハープシコード	インヴェンション第 8 番	J.S.Bach
8	P.ORGAN	パイプ・オルガン	トッカータ　二短調	J.S.Bach
9	E.ORGAN	エレクトリック・オルガン	KORG オリジナル	KORG
10	STRINGS	ストリングス	First Snow	M.Sakaguchi

1. ［SONG］スイッチと、［REVERB］スイッチを同時に押します。
   ［SONG］スイッチの LED が点滅します。

2. 音色デモ一覧から聴きたい曲を音色セレクターで選ぶと、選んだデモ曲の演奏を開始します。
   曲を選ばないまま約 3 秒経過すると、音色デモの No.1 から順番に演奏を開始します。音色デモの No.10 の演奏が終わると、再び音色デモの No.1 に戻り演奏を続けます。
   音色デモの No.2 と No.3 を選択するときは、音色セレクターをピアノ 1 にした後に［▲］、［▼］スイッチで選択してください。

3. 選んだ音色デモの演奏が終わると、次の曲へ順番に繰り返し演奏されます。

4. 演奏中は［▶/II］スイッチを押すたびに、再生（スイッチが点灯）、一時停止（スイッチが点滅）にかわります。［■］スイッチを押すと演奏が停止して、演奏していた曲の先頭に戻ります。

5. デモ演奏を終了するときは、［SONG］スイッチを押します。
   ［SONG］スイッチの LED が消灯して演奏が止まります。

● 他の音色デモに切りかえるときは、音色セレクターでデモ曲を切りかえてください。
たとえば、音色デモの No.1 を演奏中に No.10 に切りかえるときは、音色セレクターで STRINGS を選んでください。音色デモの演奏は、No.10 に切りかわり順番に演奏を続けます。また、［▲］、［▼］スイッチで曲を選択することもできます。なお、このとき音色セレクターの選択位置は無視されます。

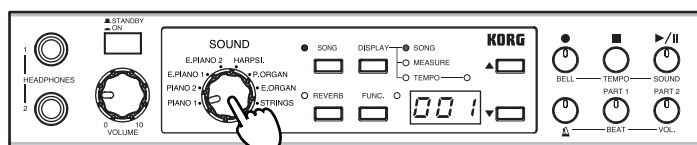
選択操作後演奏は自動的にスタート（［▶/II］スイッチ点灯）します。

音色デモの演奏中に鍵盤を弾いてその音を出すことはできますが、音色をかえることはできません。

音色デモの演奏中はリバーブの設定をかえることはできません。

音色デモのテンポはかえることができません。

弾いてみましょう

音色を選ぶ

○ 音色セレクターを回して、音色を選びます。

音色	特長
PIANO1	臨場感あふれる最高峰のグランド・ピアノの音
PIANO2	低音が豊かな音色のコンサート・グランド・ピアノの音
E.PIANO1	軽やかで透明感のあるエレクトリック・ピアノの音
E.PIANO2	アタック感があって切れの良いエレクトリック・ピアノの音
HARPSI.	クラシックな趣のあるリアルなハープシコードの音
P.ORGAN	荘厳なパイプ・オルガンの音
E.ORGAN	ファンキーなジャズ・オルガンの音
STRINGS	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

ペダルを使う

本機の音色にダンパー、ソステヌート、ソフトの３種類の機能を使うことができます。アコースティック・ピアノ本体のペダルを使って、演奏をより効果的に表現することができます。

ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。

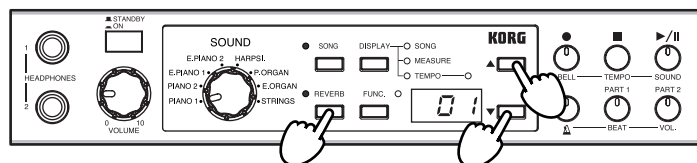
ソステヌート・ペダル

任意の音に対してのみダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだときに、押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対しては、ダンパー効果はかかりません。

ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音のやわらかさを変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。

音色に残響を加える（リバーブ）

音に残響と深みを加え、コンサート・ホールで演奏しているような、臨場感のあるサウンドにします。これをリバーブ効果といいます。

○ **［REVERB］スイッチを押すたびにオン（点灯）、オフ（消灯）を繰り返します。**
オン、オフを変更したときは、マルチ・ディスプレイが書き込み表示(☞p.6) になり、オン、またはオフが自動的に記憶されます。

書き込み表示中に本機の電源をオフにすると、記憶している設定やソング･データなどを破損する場合があります。

書き込み表示中に音色を切りかえたり、スイッチを押すなどの操作を行わないでください。

リバーブの深さの設定をかえる

1. **［REVERB］スイッチを約 1 秒長押しします。**
このとき［REVERB］スイッチの LED が点滅します。

2. **［▲］、［▼］スイッチを押して、リバーブの深さを選びます。このとき、設定がマルチ・ディスプレイに表示されます。**
表示は“01”、“02”,“03”（浅い、標準、深い）になります。

3. **設定が終わったら、[REVERB] スイッチを押して、ディスプレイを元の表示に戻します。**
設定を変更したときは、マルチ・ディスプレイが書き込み表示（☞p.6）になり、設定を記憶後、音色セレクターで選択している音色のリバーブのオン、オフに合わせて、［REVERB］スイッチの LED が点灯、または消灯します。

書き込み表示中に本機の電源をオフにすると、記憶している設定やソング･データなどを破損する場合があります。

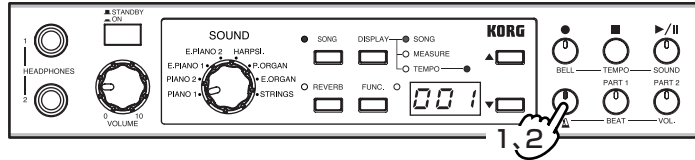
設定の変更を書き込む前に、音色を切りかえたり本機の電源をオフにすると、リバーブの深さは元の設定に戻ります。

リバーブのオン、オフや深さは音色ごとに設定することができます。工場出荷時には、音色ごとに推奨する設定になっています。

MeMO ピアノ 1 の音色では、アコースティック・ピアノの弦の響きをシミュレートしているため、リバーブをオフにしても、わずかにリバーブ効果が残ります。

メトロノームに合わせて演奏する

テンポに合わせて演奏するときは、メトロノームを使うと便利です。

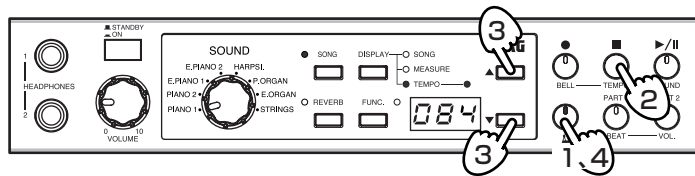
メトロノームを鳴らすときは

1. [♪] スイッチを押します。
[♪] スイッチが点灯します。

2. メトロノームを停止するときは、もう一度 [♪] スイッチを押します。
[♪] スイッチが消灯します。

メトロノームの各種設定をかえるときは

MeMO ここでの設定(テンポと拍子は除く)は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。設定を変更したときは、[♪] スイッチを押してメトロノーム設定を終了した時点でマルチ・ディスプレイが書き込み表示(☞p.6)になり、新たな設定が自動的に記憶されます。

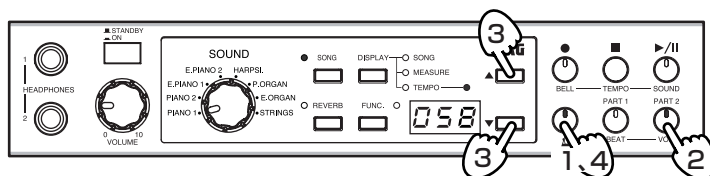
⚠ 書き込み表示中に本機の電源をオフにすると、記憶している設定やソング・データなどを破損する場合があります。

テンポをかえる

1. [♪] スイッチを 1 秒以上長押しします。
[♪] スイッチが点滅します。

2. [DISPLAY] スイッチの TEMPO LED が点灯し、マルチ・ディスプレイにテンポが表示されます。
TEMPO LED が点灯していないときは、[TEMPO (■)] スイッチを押します。

3. [▲]、[▼] スイッチで、テンポを設定してください。
スイッチを押している間は、連続して値がかわります。[▲]、[▼] スイッチを同時に押すと、電源オン時のテンポに戻ります。
設定できる範囲は、♩ = 4 ～ 250 です。

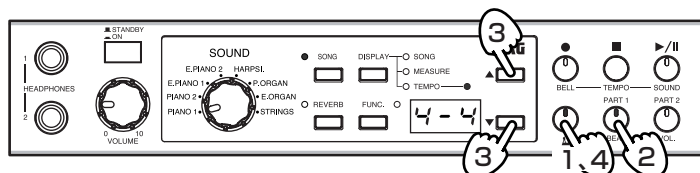
4. 設定が終わったら、もう一度 [♪] スイッチを押します。
設定に入る前の状態に合わせて、[♪] スイッチが消灯または点灯します。

音量をかえる

1. [🔔] スイッチを 1 秒以上長押しします。
   [🔔] スイッチが点滅します。

2. [VOL.(PART 2)] スイッチを押します。
   [VOL.(PART 2)] スイッチが点灯し、マルチ・ディスプレイに音量が表示されます。

3. [▲]、[▼] スイッチで、メトロノームの音量を調整してください。
   スイッチを押している間は、連続して値がかわります。
   設定できる範囲は、0 〜 127 です。

4. 調整が終わったら、もう一度 [🔔] スイッチを押します。
   設定を記憶後、入る前の状態に合わせて、[🔔] スイッチが消灯または点灯します。

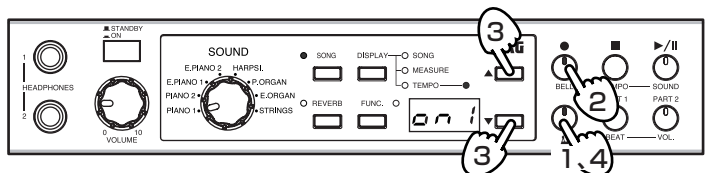
拍子をかえる

1. [🔔] スイッチを 1 秒以上長押しします。
   [🔔] スイッチが点滅します。

2. [BEAT(PART 1)] スイッチを押します。
   [BEAT(PART 1)] スイッチが点灯し、マルチ・ディスプレイに拍子が表示されます。

3. [▲]、[▼] スイッチで、拍子を設定してください。

表示	1 − 2	2 − 2	1 − 4	2 − 4	3 − 4	4 − 4	6 − 8
拍子	1/2	2/2	1/4	2/4	3/4	4/4	6/8

4. 設定が終わったら、もう一度 [🔔] スイッチを押します。
   設定に入る前の状態に合わせて、[🔔] スイッチが消灯または点灯します。

アクセントの音をかえる

1. [🔔] スイッチを 1 秒以上長押しします。
   [🔔] スイッチが点滅します。

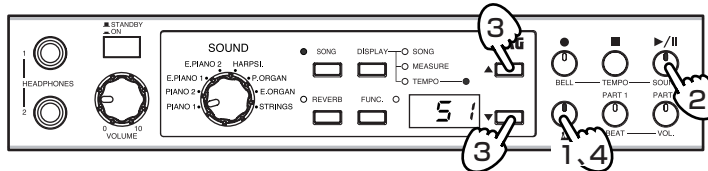
2. [BELL(●)] スイッチを押します。
   [BELL(●)] スイッチが点灯し、マルチ・ディスプレイにアクセント音が表示されます。

3. ［▲］、［▼］スイッチで、アクセント音を設定してください。

表示	oFF	on1	on2
アクセント音	無し	標準	ベル音／電子音*

* 14 ページ「メトロノームの音をかえる」で振り子音を選んだときはベル音が、デジタル音を選んだときは電子音になります。

4. 設定が終わったら、もう一度［△］スイッチを押します。
設定を記憶後、入る前の状態に合わせて、［△］スイッチが消灯または点灯します。

メトロノームの音をかえる

1. ［△］スイッチを 1 秒以上長押しします。
［△］スイッチが点滅します。

2. ［SOUND（▶/II）］スイッチを押します。
［SOUND（▶/II）］スイッチが点灯し、マルチ・ディスプレイにメトロノーム音が表示されます。

3. ［▲］、［▼］スイッチで、メトロノーム音を設定してください。

表示	S1	S2
メトロノーム音	振り子音	デジタル音

4. 設定が終わったら、もう一度［△］スイッチを押します。
設定を記憶後、入る前の状態に合わせて、［△］スイッチが消灯または点灯します。

そのほかの機能

本機には今まで説明した他に、演奏するのに役に立つ下記の機能があります。
詳細は各参照ページをご覧ください。

- **ピッチ・コントロール**：18 ページ「音の高さを微調整する」参照
- **音律設定（調律法の設定）**：18 ページ「音律を選ぶ」参照
- **ブリリアンス**：18 ページ「音色の明るさをかえる（ブリリアンス）」参照
- **打鍵の強さと音の出方の強弱設定**：19 ページ「鍵盤のタッチをかえる」参照
- **トランスポーズ（移調の設定）**：19 ページ「キーを変更する（移調）」参照
- **工場出荷時の設定に戻す**：19 ページ「工場出荷時の設定に戻す」参照

演奏を録音 / 再生する

本機のレコーダーは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生することができます。
録音パートは2つあります。別の曲を録音することはもちろん、同じ曲を右手、左手で分けて録音し、2つのパートを同時に再生することもできます。

録音されているパートに録音すると、データが上書きされて、以前の演奏データは消去されますので、録音してもよいかどうかを確認してから操作を行ってください。

録音した演奏は、本機のデータ保存エリアがいっぱいになるまで、複数の録音した演奏データを保存しておくことができます。

演奏を録音する

録音や編集終了後の書き込み表示中に、本機の電源をオフにすると、録音したソング・データや記憶している設定などを破損する場合があります。

○ クイック·レコーディング（新規ソングの録音）

本機のレコーダーは、簡単に使用することができます。
最初にクイック・レコーディングを説明します。

1. **音色セレクターを回して、録音する音色を選びます。**
2. **[●] と [▶/II] スイッチを同時に押します。**
   [●] スイッチが点灯、[PART 1] と [PART 2] スイッチが点滅します。
3. **マルチ・ディスプレイに空のユーザー・ソング番号が、点滅表示されます。**
   空のソング番号がないときは、すでに録音したユーザー・ソング"U01"が点灯表示されます。
4. **保存先をかえるときは [▲]、[▼] スイッチでソング番号を選びます。**
   U01 から U99 まで選ぶことができます。
   MeMO 録音済みのソング番号は点灯表示、空のソング番号は点滅表示になります。
   MeMO 録音済みのソング番号を選んだときは、その番号に録音したソングが上書きされます。
5. **鍵盤を弾き始めるか、[▶/II] スイッチを押すと録音が開始されます。**
   設定した MIDI チャンネル（☞p.20）の MIDI メッセージを受信して、録音を開始することもできます。
   MeMO メトロノームに合わせて録音するときは、[ ] スイッチを押して（スイッチが点灯）[▶/II] スイッチを押すと、2 小節分のプリカウント後、自動的に録音が始まります。なお、メトロノームのテンポや拍子などの設定方法は、12 ページ「メトロノームの各種設定をかえるときは」をご覧ください。
6. **録音を終了するときは [■]、[▶/II]、または [●] スイッチを押します。**
   [PART 1] スイッチが消灯して、[PART 2] スイッチが点灯にかわります。

   録音を終了すると、マルチ・ディスプレイが書き込み表示になり、演奏データを自動的にユーザー・ソングに保存します。

作成したソングに続けて演奏を加える

MeMO クイック・レコーディング後に他のソングを選択したときは、次項「保存済みのソングに演奏を加える」の操作1 ～4を行ってください。

1. **[●] スイッチを押します。**
   [●] スイッチが点灯します。
2. **録音する音色をかえるときは、音色セレクターで選びます。**
3. **[PART 1] スイッチを何度か押して点滅にします。**
4. **鍵盤を弾き始めるか、[▶/II] スイッチを押すと録音が開始されます。**
5. **録音を終了するときは [■]、[▶/II]、または [●] スイッチを押します。**

   録音を終了すると、[PART 1] スイッチが点灯してマルチ・ディスプレイが書き込み表示になり、演奏データを自動的にユーザー・ソングに保存します。

○ 録音方法

新規ソングを作成して録音する

[●] と [▶/II] スイッチを同時に押すと、ワンタッチで新規ソングの録音になります（15 ページ「○ クイック・レコーディング（新規ソングの録音）」）。

ただし、ソングが選ばれていない場合は、[●] スイッチを押すだけで、クイック・レコーディングと同じ状態になります。

MeMO ユーザー・ソングの保存領域がいっぱいになったときは、マルチ・ディスプレイにエラー"E07"と表示され、録音を保存することができません。不要なユーザー・ソングを削除（☞p.16）してから保存してください。

ソングに演奏を加える場合は

本機のレコーダは、2つのパートを持っています。
クイック・レコーディングをするときに、[PART 1] と [PART2] スイッチに触れてない場合は、自動的にパート2に録音されます。そのため、録音していないパート 1 に重ねて録音をすることができます（「作成したソングに続けて演奏を加える」参照）。
また、保存しているユーザー・ソングに、録音してないパートがある場合は、そのソングを選択して録音することができます。
2 つのパートが録音済みの場合でも、パート単位で上書きすることができます。また、パート単位で演奏データを消去する（☞p.16）ことができるので、消去したパートに新たな演奏を付け加えることができます。
なお、パートの状態はパート・スイッチの点灯で確認できます。

[PART 1] / [PART 2] スイッチ	パートの状態
消灯	パートには演奏データがありません。 または、ミュート状態です。 このパートには録音されません。
点灯	パートには録音データがあります。 このパートには録音されません。
点滅	このパートに録音します。

保存済みのソングに演奏を加える

1. **[SONG] スイッチを押します。**
   [SONG] スイッチの LED が点灯します。
2. **[▲]、[▼] スイッチで録音を加えるソングを選びます。**
   保存されているユーザー・ソングを試聴するときは、[▶/II] を押して確認します。
3. **[SONG] スイッチを押します。**
   [SONG] スイッチの LED が消灯します。
4. **[●] スイッチを押します。**
   [●] が点灯し、マルチ・ディスプレイに保存先が点灯表示されます。
   録音済みのパート・スイッチは点灯するので、点灯していないパート· スイッチを何度か押して点滅にします。録音済みのパートに上書きする場合は、そのパート・スイッチを何度か押して点滅にします。
   MeMO 両方のパートが録音済みの場合は、どちらかのパートの演奏データを消去します（16 ページ「○ 各パートの演奏データを消去するときは」参照）。

5. 保存先をかえるときは［▲］、［▼］スイッチでソング番号を選びます。
U01 からU99 まで選ぶことができます。

MeMO 録音済みのソング番号は点灯表示、空のソング番号は点滅表示になります。

MeMO 録音済みのソング番号を選んだときは、その番号に録音したソングが上書きされます。

6. 鍵盤を弾き始めるか、［▶/Ⅱ］スイッチを押すと録音が開始されます。
7. 録音を終了するときは［■］、［▶/Ⅱ］、または［●］スイッチを押します。

録音を終了すると、マルチ・ディスプレイが書き込み表示になり、演奏データを自動的にユーザー・ソングに保存します。

録音の確認事項

- 録音済みのソングに新たな演奏を加える場合、どちらか長い演奏のパートの長さ（小節数）になります。
- 録音する音色は、録音時（［●］スイッチ点灯時）に選んでいる音色になります。音色を変更するときはプリカウント中、または録音時（［●］スイッチ点灯時）でパート・スイッチが点滅中に音色セレクターで切りかえます。
- 録音中にテンポを変更したときは、そのテンポの変更が記録されます。
- テンポの変更は、［DISPLAY］スイッチを何度か押して、TEMPO LED を点灯し、マルチ・ディスプレイの値を［▲］、［▼］スイッチで設定します。
- 拍子は録音できますが、録音済みのソングの拍子は変更できません。ただし、２度目の録音をする場合には、拍子の異なる小節を追加することができます。
- 録音開始小節の設定は、録音開始前に［DISPLAY］スイッチを何度か押して、MEASURE LED を点灯し、マルチ・ディスプレイの小節を［▲］、［▼］スイッチで設定します。

○ ソングの保存

演奏データは，録音を終了すると自動的にユーザー・ソングとして保存されます。ユーザー・ソング名は、録音時に選択した番号になります。

MeMO 保存できるユーザー・ソングは最大99 曲です。また、1 曲当たりの保存できる最大容量は 999 小節、45000 ノートです。

ソングのコピー

録音したソングは、録音時に選択した番号に自動的に保存されますが、録音後に保存先を選ぶことができません。しかし、現在読み込んでいるソングを違う保存先にコピーすることができます。

1. レコーダーが停止しているときに、［FUNC.］スイッチを押します。
［FUNC.］スイッチの LED が点灯します。
2. ［DISPLAY］スイッチを押して、マルチ・ディスプレイに“SAv”と表示します。
スイッチを離すとマルチ・ディスプレイに保存先が表示されます。
3. ［▲］、［▼］スイッチで保存先を設定します。
演奏データの無い保存先はマルチ･ディスプレイの表示が点滅になります。ソング・データのある保存先は点灯になります。

保存先に演奏データがある場合は上書きされ、元の演奏データは消去されますので、注意してください。

4. ［●］スイッチを押して実行します。
このときマルチ・ディスプレイは書き込み表示になります。
5. 書き込み表示が止まったら、［FUNC.］スイッチを押して元に戻ります。
［FUNC.］スイッチの LED が消灯します。

○ ソングを消去するときは

1. レコーダーが停止しているときに、［FUNC.］スイッチを押します。
［FUNC.］スイッチの LED が点灯します。
2. マルチ・ディスプレイに “dEL” と表示されるまで、［DISPLAY］スイッチを何度か押します。
スイッチを離すとマルチ･ディスプレイにユーザー・ソング番号が表示されます。
3. ［▲］、［▼］スイッチで消去するソングを選択します。
4. ［●］スイッチを押して実行します。
このときマルチ・ディスプレイは書き込み表示になります。
5. 書き込み表示が止まったら、［FUNC.］スイッチを押して元に戻ります。
［FUNC.］スイッチの LED が消灯します。

○ 各パートの演奏データを消去するときは

1. レコーダーが停止しているときに、［FUNC.］スイッチを押します。
［FUNC.］スイッチの LED が点灯します。
2. マルチ・ディスプレイに“P.dL”と表示されるまで、［DISPLAY］スイッチを何度か押します。
スイッチを離すとマルチ・ディスプレイにパートが表示されます。

表示	ALL	P1	P2
パート	両方のパート	パート 1	パート 2

3. ［▲］、［▼］スイッチで消去するパートを選択します。
4. ［●］スイッチを押して実行します。
このときマルチ・ディスプレイは書き込み表示になります。
5. 書き込み表示が止まったら、［FUNC.］スイッチを押して元に戻ります。
［FUNC.］スイッチの LED が消灯します。

MeMO 両方のパートの演奏データを削除しても、録音済みのソング（テンポや拍子情報が残る）として認識されます。ソングを削除するときは、16 ページ「○ ソングを消去するときは」をご覧ください。

○ 録音可能なデータ残量を知りたいときは

［●］スイッチが点灯（録音待機 / 録音時）しているときに、［FUNC.］スイッチを押します。
マルチ・ディスプレイに録音可能なデータ残量がパーセントで5 秒間表示されます。

残量が 100 パーセントのときは、録音できる音数が約 45000、または録音できる小節が 999 小節の状態です。
残しておきたい演奏データは、USB 機能を使って演奏データを保存、管理することをお勧めします（☞p.22）。

演奏を再生する

○ 再生するソングを選ぶ

1. **[SONG] スイッチを押します。**
[SONG] スイッチのLED と、[DISPLAY] スイッチのSONG LED が点灯して、マルチ・ディスプレイにユーザー・ソングの番号が表示されます。

· 電源をオン後に、初めて [SONG] スイッチを押したときは、保存しているユーザー・ソングの最小番号が表示されます。

· 電源をオン後に、ユーザー・ソングを選んでいたときは、最後に選んだ番号が表示されます。

· ユーザー・ソングが 1 曲も保存されていないときは、マルチ・ディスプレイに"- - -"が表示されます。

2. **[▲]、[▼] スイッチを押して、マルチ・ディスプレイで再生するソングの番号を選びます。**
3. **[▶/II] スイッチを押すと演奏が始まります。**
選んだ曲の演奏が始まります。

再生するパートについて

再生するソングを選ぶと、演奏を録音してあるパートのスイッチが点灯します。スイッチが点灯しないパートには演奏が録音されていません。また、それぞれのパートの演奏をミュート（消音）するときは、そのパート・スイッチを押します（スイッチが消灯）。

ミュートするパートの音量（パート・ミュート・レベル）を調整することができます。

1. **[SONG] スイッチの LED が点灯しているときに [FUNC.] スイッチを押します。**
[FUNC.] スイッチの LED が点灯します。
2. **ミュートするパートの [PART 1]（または [PART 2]）スイッチを押します。**
[PART 1]（または [PART 2]）スイッチが消灯します。
3. **マルチ・ディスプレイに"P.Lv"と表示されるまで、[DISPLAY] スイッチを何度か押します。**
スイッチを離すとマルチ・ディスプレイに音量（工場出荷時は 30）が表示されます。
4. **[▲]、[▼] スイッチを押してパート・ミュート・レベルを設定します。**
設定範囲は 00（無音）から 90 になります。
5. **[FUNC.] スイッチを押して、設定を終わります。**
[FUNC.] スイッチの LED が消灯します。

○ ソングの再生を一時停止するときは

1. **演奏中に [▶/II] スイッチを押すと演奏が一時停止します。**
[▶/II] スイッチが点滅し、テンポ LED が消灯します。
2. **もう一度 [▶/II] スイッチを押すと一時停止したところから演奏を再開します。**
[▶/II] スイッチが点灯し、テンポ LED がテンポに合わせた点滅にかわります。

○ 再生中のソングを先頭から聴きなおすときは

1. **演奏中に [■] スイッチを押すと演奏が停止します。**
この時点で、演奏中のソング先頭に戻ります。
2. **[▶/II] スイッチを押すとそのソングの最初から演奏します。**

○ 再生している演奏のテンポをかえる

1. **[DISPLAY] スイッチを何度か押して、TEMPO LED を点灯します。**
テンポがマルチ・ディスプレイに表示されます。
2. **[▲]、[▼] スイッチを押して、テンポを調整してください。**
スイッチを押している間は、連続して値がかわります。
設定できる範囲は♩= 4 〜 250 です。

○ 小節移動

1. **[DISPLAY] スイッチを何度か押して、MEASURE LED を点灯します。**
小節がマルチ・ディスプレイに表示されます。
2. **[▲]、[▼] スイッチを押して、移動する小節を設定します。**
3. **停止しているときに小節を移動すると一時停止状態（[▶/II] スイッチが点滅）になり、[▶/II] スイッチを押すとその位置から再生が始まります。**

MeMO ユーザー・ソングは [▲]、[▼] スイッチを同時に押して、ソングの小節 001 の先頭に戻すこともできます。

○ 小節を指定して繰り返し再生するときは（AB リピート機能）

ユーザー・ソングの演奏の開始小節位置と終了小節位置を指定し、その区間を繰り返し演奏することができます。

1. **[SONG] スイッチの LED が点灯しているときに、[FUNC.] スイッチを押します。**
[FUNC.] スイッチの LED が点灯します。
2. **マルチ・ディスプレイに"Ab.r"と表示されるまで、[DISPLAY] スイッチを何度か押します。**
スイッチを離すとマルチ·ディスプレイに設定（工場出荷時は"oFF"）が表示されます。
3. **[▲]、[▼] スイッチを押して"on"に設定します。**
オンにすると、マルチ·ディスプレイの右下にドットが表示されます。
4. **再び [DISPLAY] スイッチを押して、マルチ・ディスプレイに"A."と表示します。**
スイッチを離すとマルチ・ディスプレイに開始小節（工場出荷時は 001.）が表示されます。
5. **[▲]、[▼] スイッチを押して繰り返しの開始小節に設定します。**
6. **再び [DISPLAY] スイッチを押して、マルチ・ディスプレイに"b"と表示します。**
スイッチを離すとマルチ・ディスプレイに終了小節（工場出荷時は 001.）が表示されます。
7. **[▲]、[▼] スイッチを押して、繰り返しの終了小節に設定します。**
8. **[FUNC.] スイッチを押して、設定を終わります。**
[FUNC.] スイッチの LED が消灯します。
9. **[▶/II] スイッチを押してソングの演奏を始めると、自動的に設定した開始小節と終了小節の区間を、繰り返し演奏します。**
AB リピート区間では、マルチ・ディスプレイの右下にドットが点灯します。AB リピート区間以外のときは、ドットが点滅します
10. **指定区間の演奏を解除するときは、操作 3 で"oFF"にします。**
オフにするとマルチ・ディスプレイの右下のドットは消灯します。

MeMO マルチ・ディスプレイの右下のドット（☞p.6）は、テンポ、ソング番号、小節位置表示のときと、ソングの機能設定（☞p.26）中に表示されます。

他のユーザー・ソングを選んだり録音に入ると、自動的にオフになり、同時に設定した開始、終了小節も 001 に戻ります。

各種機能

他にも便利な機能を持っていて、電子ピアノならではの機能を設定することができます。

音の高さを微調整する

ピッチ（音の高さ）の微調整を行ないます。これを、ピッチ・コントロール機能といいます。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。
0.5Hz 単位で± 25.0Hz（415.0Hz ～ 465.0Hz）までずらすことができます。

1. **［SONG］スイッチのLED が消灯しているときに、［FUNC.］スイッチを押します。**
   ［FUNC.］スイッチの LED が点灯します。
2. **マルチ・ディスプレイに“tUn”と表示されるまで、［DISPLAY］スイッチを何度か押します。**
   スイッチを離すとマルチ・ディスプレイに現在のピッチの下３桁（工場出荷時は 40.0）が表示されます。
3. **［▲］、［▼］スイッチで、ピッチを設定してください。**

表示	15.0	...	39.5	40.0	40.5	...	65.0
ピッチ［Hz］	415.0	...	439.5	440.0	440.5	...	465.0

4. **設定を終了するときは、もう一度［FUNC.］スイッチを押します。**
   設定を記憶後、［FUNC.］スイッチの LED が消灯します。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。設定を変更したときは、［FUNC.］スイッチを押して設定を終了した時点で、マルチ・ディスプレイが書き込み表示になり、新たな設定が自動的に記憶されます。

書き込み表示中に本機の電源をオフにすると、記憶している設定やソング・データなどを破損する場合があります。

音律を選ぶ

音律が選択できます。
クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、ヴェルクマイスターとキルンベルガーという古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の３ 種類の音律が選択できます。

- **ヴェルクマイスター：**ドイツ人のオルガニストで、音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターⅢ スケールです。これはバロック時代後期に、比較的自由な移調を目的として考案されたものです。
- **キルンベルガー：**18 世紀初めに、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーⅢ スケールです。これは主にハープシコードのチューニングに使用されます。
- **平均律：**現在の鍵盤楽器のほとんどすべてが、この平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

1. **［SONG］スイッチのLED が消灯しているときに、［FUNC.］スイッチを押します。**
   ［FUNC.］スイッチの LED が点灯します。
2. **マルチ・ディスプレイに“ScL”と表示されるまで、［DISPLAY］スイッチを何度か押します。**
   スイッチを離すとマルチ・ディスプレイに現在の音律設定（工場出荷時は 00）が表示されます。
3. **［▲］、［▼］スイッチで、音律を設定してください。**

表示	00	01	02
音律	平均律	ヴェルクマイスター	キルンベルガー

4. **設定を終了するときは、もう一度［FUNC.］スイッチを押します。**
   ［FUNC.］スイッチの LED が消灯します。

MeMO この設定は、音色セレクターを切りかえたり、電源をオフにすると工場出荷時の設定（平均律）に戻ります。

MeMO ピアノ 1、ピアノ2 の音色では、ストレッチ・チューニングを用いています。ストレッチ・チューニングは、より自然な響きを得るために平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。

音色の明るさをかえる（ブリリアンス）

音の明るさを選びます。

1. **［SONG］スイッチのLED が消灯しているときに、［FUNC.］スイッチを押します。**
   ［FUNC.］スイッチの LED が点灯します。
2. **マルチ・ディスプレイに“brL”と表示されるまで、［DISPLAY］スイッチを何度か押します。**
   スイッチを離すとマルチ・ディスプレイに現在の設定（工場出荷時は 02）が表示されます。
3. **［▲］、［▼］スイッチで、音の明るさを設定してください。**

表示	01	02	03
音の明るさ	明るさを抑えた落ち着いた音色	標準の明るさの音色	明るめの音色

4. **設定を終了するときは、もう一度［FUNC.］スイッチを押します。**
   設定を記憶後、［FUNC.］スイッチの LED が消灯します。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。設定を変更したときは、［FUNC.］スイッチを押して設定を終了した時点で、マルチ・ディスプレイが書き込み表示になり、新たな設定が自動的に記憶されます。

書き込み表示中に本機の電源をオフにすると、記憶している設定やソング・データなどを破損する場合があります。

鍵盤のタッチをかえる

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチ・コントロール機能といいます。
電源をオンにしたときは、標準（02）のタッチになります。

1. ［FUNC.］スイッチを 1 秒以上長押しします。
［FUNC.］スイッチの LED が点滅します。

2. マルチ・ディスプレイに“tch”と表示されるまで、［DISPLAY］スイッチを何度か押します。
スイッチを離すとマルチ･ディスプレイに現在の設定（工場出荷時は 02）が表示されます。

3. ［▲］、［▼］スイッチで、タッチを設定してください。

表示	01	02	03
タッチ	軽め	標準	重め

4. 設定を終了するときは、もう一度［FUNC.］スイッチを押します。
設定を記憶後、［FUNC.］スイッチの LED が消灯します。

MeMO この設定は、電源をオフにすると標準設定に戻ります。

キーを変更する(移調)

キーをかえる（移調する）ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで、他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。
11 半音の範囲で設定することができます。

1. ［FUNC.］スイッチを 1 秒以上長押しします。
［FUNC.］スイッチの LED が点滅します。

2. マルチ・ディスプレイに“trS”と表示されるまで、［DISPLAY］スイッチを何度か押します。
スイッチを離すと、マルチ・ディスプレイに現在の設定（工場出荷時は 00）が表示されます。

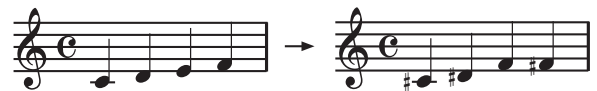
3. ［▲］、［▼］スイッチで、キーを設定してください。

表示	-11	...	-03	-02	-01	00	01	02	03	...	11
キー	C♯	...	A	A♯	B	C	C♯	D	D♯	...	B

4. 設定を終了するときは、もう一度［FUNC.］スイッチを押します。
［FUNC.］スイッチの LED が消灯します。

MeMO 電源をオフにすると、00 に戻ります。

○ 曲の調子を半音上げて演奏するときは

C の鍵を押さえたときに C♯ の音が鳴るようにします。
キーを C♯（表示は 01）に設定します。
半音上げたときに下の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。

○ キーが B♭ の曲を、G の指使いになおして演奏するときは

B♭ の音は、G の音から見て短 3 度の（3半音高い）音にあたります。したがって、C の鍵盤を押したときに、C よりも 3 半音高い D♯ の音が出るようにします。
キーを D♯（表示は 03）に設定します。

工場出荷時の設定に戻す

音色を選んでいろいろな設定を記憶したあとで、工場出荷時（購入時）の設定に戻したいときは、以下の操作を行ってください。
この操作を行うと、録音したデータは消えませんが、それ以外の設定が工場出荷時の状態に戻ります。録音したデータを消去するときは、16 ページ「○ ソングを消去するときは」をご覧ください。

⚠ 工場出荷時の設定に戻してもよいかどうかを、必ず確認してから操作を行ってください。

1. 電源をオフにします。

2. ［▶/II］スイッチを押しながら電源をオンにします。
マルチ・ディスプレイに“LFd”と表示され工場出荷時の設定に戻ります。

MIDI

MIDI(ミディ)とは？

MIDI（Musical Instrument Digital Interface）は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。
本機を使うことによって、他の MIDI を備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切りかえやダンパー・ペダルなどの効果を、一緒にコントロールできます。また、他の MIDI キーボードや、シーケンサー（自動演奏装置）から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。複数の MIDI 機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。
ここでは、本機に関連した MIDI の使用方法について説明します。さらに MIDI に興味のある方は、わかりやすく説明した本も、数多く出版されていますのでご利用ください。

MIDI の接続方法

MIDI 情報をやりとりするには、市販の MIDIケーブルを使います。このケーブルを、本機の MIDI 端子と情報をやりとりする外部 MIDI 機器の MIDI 端子に接続します。この MIDI 端子は 2 種類あります。

MIDI IN 端子
MIDI 情報を受信します。
外部 MIDI 機器（MIDI キーボードやシーケンサーなど）で、本機の音を鳴らすなどのコントロールができます。本機の MIDI IN 端子と外部 MIDI 機器の MIDI OUT 端子を、MIDI ケーブルで接続します。

MIDI OUT 端子
MIDI 情報を送信します。
本機を使ったときなどに出力される MIDI 情報で、外部MIDI 機器をコントロールできます。本機の MIDI OUT 端子と外部 MIDI 機器の MIDI IN 端子を、MIDI ケーブルで接続します。

MIDI チャンネル

接続が終わったら、本機と接続する MIDI 機器の MIDI チャンネルを同じ番号に設定します。MIDI チャンネルには 1 ～ 16 があります。
鍵盤音はここで設定した MIDI チャンネルが使用されます。

MeMO 電源を入れたときは、常に"C01"に戻ります。

1. **[FUNC.] スイッチを 1 秒以上長押しします。**
   [FUNC.] スイッチの LED が点滅します。
2. **マルチ・ディスプレイに"Ch"と表示されるまで、[DISPLAY] スイッチを何度か押します。**
   スイッチを離すとマルチ・ディスプレイに現在の設定（工場出荷時は C01）が表示されます。
3. **[▲]、[▼] スイッチで、チャンネルを設定してください。**

表示	C01	...	C16
チャンネル	1	...	16

4. **設定を終了するときは、もう一度 [FUNC.] スイッチを押します。**
   [FUNC.] スイッチの LED が消灯します。

ここで設定した MIDI チャンネルは、MIDI 入力を録音できるようになります。

マルチ・ティンバー音源として使う

本機の電源を入れたときは、内蔵音源を外部 MIDI 機器からコントロールして鳴らすことができる、16 パート・マルチティンバー音源として動作します。

1. **本機の MIDI IN とシーケンサーなどの MIDI OUT を MIDI ケーブルで接続します。**
2. **接続したシーケンサーなどからの MIDI データを受信します。**
   接続するシーケンサーなどの送信方法は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

演奏データと一緒にプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。ただし、該当する MIDI チャンネルのプログラム・チェンジ・フィルターが、オフになっているときに限ります。また、MIDIチャンネル（☞p.20）で設定されているチャンネルについては、プログラム・チェンジを無視します。

MeMO 電源を入れたときは、常にマルチティンバー音源動作に戻ります。

1. **[FUNC.] スイッチを 1 秒以上長押しします。**
   [FUNC.] スイッチの LED が点滅します。
2. **マルチ・ディスプレイに"16t"と表示されるまで、[DISPLAY] スイッチを何度か押します。**
   スイッチを離すとマルチ・ディスプレイに、現在の設定（工場出荷時は on）が表示されます。
3. **[▲]、[▼] スイッチで、オン、オフを設定してください。**

表示	on	oFF
マルチ・ティンバー	オン	オフ

4. **設定を終了するときは、もう一度 [FUNC.] スイッチを押します。**
   [FUNC.] スイッチの LED が消灯します。

外部の MIDI データで本機を鳴らす場合、音色セレクターで音色をかえることはできません。ただし、MIDI チャンネル（☞p.20）で設定されているチャンネルについては、かえることができます。

ローカル・オン / オフの設定

本機が取り付けられている、アコースティック・ピアノの鍵盤を弾いたときに、内蔵音源は鳴らさないで MIDI で接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック（シーケンサーが受信したデータを送り返す動作）を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合は、本機をローカル・オフに設定します。通常はローカル・オンに設定し、鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

MeMO 電源を入れたときは、常にローカル・オンに戻ります。

1. **[FUNC.] スイッチを 1 秒以上長押しします。**
   [FUNC.] スイッチの LED が点滅します。
2. **マルチ・ディスプレイに"L.ct"と表示されるまで、[DISPLAY] スイッチを何度か押します。**
   スイッチを離すとマルチ・ディスプレイに現在の設定（工場出荷時は on）が表示されます。
3. **[▲]、[▼] スイッチで、設定してください。**

表示	on	oFF
ローカル	オン	オフ

4. **設定を終了するときは、もう一度 [FUNC.] スイッチを押します。**
   [FUNC.] スイッチの LED が消灯します。

プログラム・チェンジ

接続した MIDI 機器のプログラム番号を、本機から切りかえたり、接続したMIDI 機器から、本機のプログラム番号を切りかえます。

プログラム・チェンジの送信

接続した外部MIDI 機器のプログラム番号を、本機から切りかえます。

○ **音色セレクターで音色を選ぶと、次項の表のように MIDI プログラム・チェンジ・ナンバーを送信します。**

プログラム・チェンジの受信

外部からプログラム・チェンジ・ナンバーを受信すると、下表のように、本機のマルチ・ティンバーの音色が切りかわります。
ただし、MIDI チャンネル（☞p.20）で設定されているチャンネルについては、プログラム・チェンジを無視します。

本機は、下表の MIDI プログラム・チェンジ・ナンバーを受信したときに、音色が切りかわります。外部 MIDI 機器より、指定されたナンバー以外の MIDI プログラム・チェンジ・ナンバーを受信すると、本機の音色は発音しなくなります。

シングル	Bank#	PC#	音色
	00	00	PIANO1
	01	00	PIANO2
	00	04	E.PIANO1
	00	05	E.PIANO2
	00	06	HARPSI.
	00	19	P.ORGAN
	00	16	E.ORGAN
	00	48	STRINGS

プログラム・チェンジ・フィルター

プログラム・チェンジの情報を送受信しないときは、プログラム・チェンジ・フィルターをオンに、送受信するときはオフにします。

MeMO 電源を入れたときは、常にオフに戻ります。

1. **［FUNC.］スイッチを 1 秒以上長押しします。**
［FUNC.］スイッチの LED が点滅します。
2. **マルチ・ディスプレイに “PC” と表示されるまで、［DISPLAY］スイッチを何度か押します。**
スイッチを離すと、マルチ・ディスプレイに現在の設定（工場出荷時は oFF）が表示されます。
3. **［▲］、［▼］スイッチで、設定してください。**

表示	on	oFF
プログラム・チェンジ・フィルター	オン	オフ

4. **設定を終了するときは、もう一度［FUNC.］スイッチを押します。**
［FUNC.］スイッチの LED が消灯します。

コントロール・チェンジ・フィルター

本機のダンパー・ペダルなどの情報を、接続した外部 MIDI 機器に送信してコントロールしたり、外部 MIDI 機器からこれらの情報を受信して、本機をコントロールできます。

これを送受信するときは、コントロールチェンジ・フィルターをオフに、しないときはコントロール・チェンジ・フィルターをオンに設定します。

MeMO 電源を入れたときは、常にオフに戻ります。

1. **［FUNC.］スイッチを 1 秒以上長押しします。**
［FUNC.］スイッチの LED が点滅します。
2. **マルチ・ディスプレイに “CC” と表示されるまで、［DISPLAY］スイッチを何度か押します。**
スイッチを離すと、マルチ・ディスプレイに現在の設定（工場出荷時は oFF）が表示されます。
3. **［▲］、［▼］スイッチで、設定してください。**

表示	on	oFF
コントロール・チェンジ・フィルター	オン	オフ

4. **設定を終了するときは、もう一度［FUNC.］スイッチを押します。**
［FUNC.］スイッチの LED が消灯します。

USB

USB で MIDI データを使う

本機では MIDI を利用するときに、MIDI端子以外に USB 端子を使ってもコンピューターと接続できます。このため、MIDI インターフェース機器を用いなくても本機とコンピューターを接続し、MIDI 音源として使ったり、入力用キーボードとして使うことができます。

コンピューターとの接続

下記の「KORG USB-MIDI Driver 動作環境」の条件を満たすコンピューターと本機を USB で接続するときは、KORG USB-MIDI Driver を使用してください。

KORG USB-MIDI Driver 動作環境

Windows:

対応コンピューター :
Microsoft Windows XP / Vista の動作環境を満たす USB ポート搭載のコンピューター
対応 OS:
Microsoft Windows XP / Vista
(x64 Edition 用ドライバはベータ版です。)

Macintosh:

対応コンピューター :
Mac OS X の動作環境を満たす USB ポート搭載の Apple Macintosh
対応 OS:
Mac OS X 10.3 以降
上記の環境を満たしていても、お客様がご使用になるコンピューターによっては動作しないこともあります。あらかじめご了承ください。

使用前のご注意

本製品のソフトウェアの著作権は、すべて(株)コルグが所有しています。
本製品のソフトウェアの使用許諾契約が、別途に付属されています。ソフトウェアをインストールする前に、必ずこの使用許諾契約をお読みください。ソフトウェアをインストールすると、この契約にご同意いただいたことになります。

Windows XP / Vista : KORG USB-MIDI ドライバのインストール

KORG USB-MIDI Driver Tools をインストールしてから、本機とコンピューターを USB ケーブルで接続します。

1. **付属CD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブに挿入します。**
   通常、「KORG Digital Piano Application Installer」が自動的に起動します。
   コンピューターの設定などで自動的に起動しない場合は、CD-ROM の中の「KorgSetup.exe」をダブルクリックします。
2. **表示に従ってインストールをしてください。**
   同時にインストールされる KORG MIDI Data Filer は、本機では使用できません。
3. **本機の電源を入れてコンピューターと初めてUSBケーブルで接続すると、自動的に Windows 標準の USB MIDI ドライバーがインストールされます。**
   ご使用になる USB ポートに対して、KORG USB-MIDI Driver for Windows をインストールしなおします。

KORG USB-MIDI Driver のインストール

1. **コンピューターへ、KORG USB-MIDI Driver Tools のインストールを済ませておいてください。**
2. **コンピューターを起動し、本機の電源をオンにしてから USB ケーブルで接続します。**

ドライバーのインストールは、USB のポートごとに必要です。KORG USB-MIDI Driver for Windows を、インストールしたときと異なる USB ポートに、本機を接続して使用する場合は、同様の手順で新たに、KORG USB-MIDI Driver をインストールしなおしてください。

3. **タスクバーの[スタート]→[すべてのプログラム]→[KORG]→[KORG USB-MIDI Driver Tools]→[インストール・マニュアル]を選びます。**
4. **表示されたインストール・マニュアルに従って、KORG USB-MIDI Driver のインストールを行ってください。**

本機とドライバのポートについて

KEYBOARD ポート
本機の MIDI メッセージ(鍵盤やコントローラーのデータ)を、コンピューターのアプリケーションで受信するときに使用します。
SOUND ポート
コンピューターのアプリケーションの MIDI メッセージを、本機の内部音源で発音させるときに使用します。

Mac OS X:KORG USB-MIDI ドライバのインストール方法

「KORG USB-MIDI ドライバ動作環境」の条件を満たすコンピューターと、本機を USB ケーブルで接続するときは、KORG USB-MIDI Driver を使用してください。

KORG USB-MIDI Driver のインストール

1. **付属 CD-ROM を、コンピューターの CD-ROM ドライブに挿入します。**
2. **CD-ROM の中の、「KORG USB-MIDI Driver」フォルダ内にある、「KORG USB-MIDI Driver.pkg」をダブルクリックして、インストーラーを起動し、表示に従ってインストールをしてください。**

本機とドライバのポートについて

KEYBOARD ポート
本機の MIDI メッセージ(鍵盤やコントローラーのデータ)を、コンピューターのアプリケーションで受信するときに使用します。
SOUND ポート
コンピューターのアプリケーションの MIDI メッセージを、本機の内部音源で発音させるときに使用します。

USB モード

本機の内蔵メモリーとコンピューター間で、データのやりとりができます。このためには、データ転送用に USB 接続を有効にすることが必要です。
対応 OS は Windows Me/2000 以降、または Mac OS 9.0.4 以降になります。なお、Windows98 でご使用になる場合は、コルグ・ホームページ、またはお客様相談窓口でご確認ください

本機をデータ転送用として USB モードに入る前に、必ずコンピューター上の MIDI アプリケーションを終了してください。MIDI アプリケーションが動作していると、本機のデータを損傷する恐れがあります。

USB モードを解除する(本機で"oFF"を選ぶ、コンピューターでデバイスの取り外しを行う、USB ケーブルを外す)と、本機は自動的に再起動するので、保存していないデータや設定は失われま

す。USB モードに入る前に、必ず保存していないデータや設定の保存作業を行ってください。

このデータ転送が有効なときは、USB による MIDI の送受信はできません。

1. **本機とコンピューターを、USB ケーブルで接続します。**
2. **[FUNC.] スイッチを 1 秒以上長押しします。**
   [FUNC.] スイッチの LED が点滅します。
3. **マルチ・ディスプレイに“USb”と表示されるまで、[DISPLAY] スイッチを何度か押します。**
   スイッチを離すとマルチ･ディスプレイに現在の設定（電源オン時は oFF）が表示されます。

   USB モードをオンにすると、USB モードのオフ、鍵盤を弾いて音を出す、リバーブのオン、オフ、メトロノームのオン、オフ以外の本機の操作はできなくなります。
4. **[▲]、[▼] スイッチで、設定してください。**

表示	on	oFF
USB モード	オン （マス・ストレージ）	オフ （USB MIDI）

USB モードをオフにすると、本機は自動的に再起動します。

USB モードでデータを転送している間に、オフにして USB モードから抜けたり、USB ケーブルの接続を外すと、本機のデータや、接続しているコンピューターに損傷を与える場合があります。

USB モードのまま本機の電源をオフにしないでください。その場合、本機のデータや接続しているコンピューターに、損傷を与える場合があります。

5. **これで、他の外部 USB ドライブと同じように、フォルダやファイルを移動することで、データのバックアップ、リストアができます。**
   本機のデータは、“KORG USER”内のフォルダに入っています。
   フォルダ内のファイルネームの長さは、128 文字までです。

フォルダ	内容
GLOBAL	グローバル（共通）設定
PRESET	各音色の設定
UserSong	本機で録音したソングや外部シーケンサーで作成したソング。 このフォルダにスタンダードMIDI ファイル･ フォーマットのソング（拡張子 .MID）をコピーすることができる。

6. **データ転送が完了したら、コンピューターのデスクトップから本機のドライブを取り出し / 削除をします。USB 機器の取り出し / 削除の方法は、お使いのコンピューターの説明書をお読みください。**
   OS が Windows XP の場合は、USB 機器の取り出しを行う（Windows Vista の場合は、USB 機器の取り出しを行った後、本機の [▼] スイッチを押す）と、自動的に初期（電源をオンにしたときの）画面に戻ります。
   OS が Mac の場合は、“KORG SSD”をゴミ箱にすてる（または片付ける）と、自動的に初期（電源をオンにしたときの）画面に戻ります。

MIDI ファイルの再生について

UserSong フォルダ内のファイル名が､以下の条件のスタンダードMIDI ファイルは、ユーザー･ソングとして認識でき、再生することができます。

アルファベット U ＋数字 2 桁（01 ～ 99）＋拡張子（.mid）

例：U07.mid、U34.mid 等

本機で設定できない拍子のスタンダード MIDI ファイルは、正しく演奏されない場合があります。

付録

故障とお思いになる前に

電源が入らない

- AC アダプターの DC プラグを本体の DC12V に差し込んでいますか？
- AC アダプターの電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか？
- 電源がオンになっていますか？（☞p.8）
- それでも電源が入らない場合は、ACアダプターの電源コードをコンセントから抜いて、修理を依頼してください。

音が出ない

- 本機の［VOLUME］ツマミを左側に回しきって（“0”の手前）いませんか？（☞p.8）
- 選んでいるパートが再生されるように設定していますか？（☞p.17）
- 選んでいるパートに演奏データは録音されていますか？（☞p.15）
- 選んでいるパートが消音になっていませんか？（☞p.17）
- ローカルオンになっていることを確認してください（☞p.20）。
- マルチ・ディスプレイにエラー表示“E01”がでていませんか？
  ピアノ本体とユニットをつないでいるケーブルに、異常が発生しています。取付認定技術者または、購入した販売店に修理を依頼してください。エラー表示（E01）は［▲］、または［▼］スイッチを押すと消えます。
- マルチ・ディスプレイにエラー“E04”が表示されていませんか？
  取付認定技術者、または購入した販売店へ問い合わせてください。エラー表示（E04）は［▲］、または［▼］スイッチを押すと消えます。

マルチ・ディスプレイに“E02”と表示された

- ユニット取付時のデータが壊れています。
  音量、音程、ペダルの効き具合などがずれている可能性があります。取付認定技術者または、購入した販売店に修理および、再調整を依頼してください。
  エラー表示（E02）は［▲］、または［▼］スイッチを押すと消えます。

音が途切れてしまう

- 最大同時発音数を超えています。
  前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的に鳴らす仕組みになっているため、最大同時発音数を超えると音が切れてしまいます。エレクトリック・ピアノ 1 の音色は、最大同時発音数が 80 音ですが、そのほかの音色は 2 つのデータを使用しているため、最大同時発音数が 40 音になります。
  ダンパーペダルを使用するときや、録音したデータを再生するときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

特定の鍵盤で音が出ない、大きい、小さい

- マルチ・ディスプレイにエラー表示“E03”がでていませんか？
  キャリブレーションがとれていません。取付認定技術者、または購入した販売店へ問い合わせてください。
- キャリブレーションがずれている可能性があります。取付認定技術者、または購入した販売店へ問い合わせてください。
- 消音ユニットは、取付認定技術者によるアコースティック・ピアノの定期的な調律、整調を行わないと、本来の性能が発揮できずに上記のような症状が発生する場合があります。1年に1度の目安で調律、整調を行うことをお薦めします。

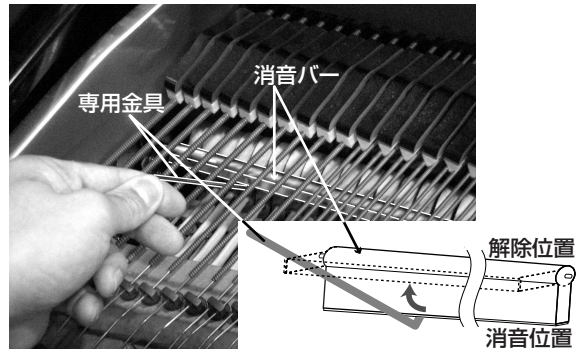
ペダルの効きが弱すぎる、強すぎる

- マルチ・ディスプレイにエラー表示“E03”がでていませんか？
  キャリブレーションがとれていません。取付認定技術者、または購入した販売店へ問い合わせてください。
- 消音ユニットは、取付認定技術者によるアコースティック・ピアノの定期的な調律、整調を行わないと、本来の性能が発揮できずに上記のような症状が発生する場合があります。1年に1度の目安で調律、整調を行うことをお薦めします。

アコースティック・ピアノと音程が違う

- 消音ユニットは、取付認定技術者によるアコースティック・ピアノの定期的な調律、整調を行わないと、本来の性能が発揮できずに上記のような症状が発生する場合があります。1年に1度の目安で調律、整調を行うことをお薦めします。

通常のアコースティック・ピアノの演奏ができない（自動タイプの消音ユニットの場合）

- ピアノ底面の消音ユニットの MUTING BAR の LED が点灯していませんか（☞p.7）。
- 故障等で電動の消音バーが動かなくなってしまった場合、製品に付属の専用金具を利用して、以下のように消音バーを解除して応急的にピアノを使用することができます。

これは、あくまで一時的な対応ですので、必ず取付認定技術者、または購入した販売店へ問い合わせてください。

録音できない

- レコーダーの空き領域は十分にありますか？（☞p.16、p.25）

途中から録音しなおすと、録音した部分だけテンポや拍子が違う

- 録音をしなおすときに、その前の録音時のテンポや拍子と同じ設定にしましたか？
  本機は、録音済みのソングのテンポは上書き録音時に変更できますが、拍子は変更できません。ただし、2 度目の録音時に拍子の異なる小節を追加することはできます（☞p.16）。

録音パート1と2で別々のテンポや拍子で再生できない

- 本機は、パート 1 と 2 のテンポと拍子は共通で使用します。また、拍子は最初に録音されたパートの拍子で再生されます（☞p.16）。

送信した MIDI データに外部機器が応答しない

- MIDIケーブルが正しく接続されていることを確認してください(☞p.20)。
- 受信機器と同じチャンネルで、本機が MIDI データを送信していることを確認してください（☞p.20）。

USB-MIDI Driver for Windows がインストールできない(Windows をお使いの場合)

- USB ケーブルが正しく接続されているか確認してください(☞p.20)。
- CD-ROM が CD ドライブに正しく入っているか確認してください。
- CD ドライブのレンズが汚れていませんか？
市販のレンズ・クリーナーでクリーニングしてください。
- ネットワークの CD ドライブからインストールしていませんか？
ネットワークで接続されているCDドライブからはインストールできません。
- USB が使用可能になっているか確認してください。
Windows XP の場合、[コントロール パネル] の [システム]、[ハードウェア] タブ、[デバイス マネージャ] でユニバーサル シリアル バスコントロール、USB ルートハブを確認してください。
- 不明なデバイスとして認識されていませんか？
Windows XP の場合、[コントロール パネル] の [システム]、[ハードウェア] タブ、[デバイス マネージャ] で確認します。正しく認識されない場合は、本機が「その他のデバイス」の中に表示されたり、「不明なデバイス」と表示されます。USB ケーブルを再接続し、新たに「不明なデバイス」と表示された場合は、本機が不明なデバイスとして認識されています。表示された「不明なデバイス」を削除し、ドライバをインストールしなおしてください(☞p.22)。

ソフトウェアが反応しない

- USB ケーブルが正しく接続されているか確認してください(☞p.22)。
- ドライバをインストールしましたか？
- 接続したコンピューターに本機が認識されているか確認してください。
Windows XP の場合は、コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」、ハードウェアで確認してください。
Mac OS X の場合は、Macintosh HD →アプリケーション・フォルダー→ユーティリティ・フォルダー→“Audio MIDI 設定”の“MIDI 装置”タブ・ページで本機が認識されているかを確認してください。
ご使用になるコンピューターのハードウェア環境によっては、USB 接続で本機を認識できないことがあります。
- 本機のアサイン設定と USB MIDI ポートの設定を確認してください(☞p.22)。
- 接続している機器やソフトウェアが、本機の機能に対応していない場合があります。接続している機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照し、確認してください。

消音しない利用例

本機はアコースティック・ピアノの音を消して、ヘッドホン演奏や練習する目的の機器ですが、アコースティック・ピアノを消音することなく、本機の一部の機能を利用することができます。

- メトロノームやソングを鳴らしながら、それに合わせてアコースティック・ピアノを使った練習。
鍵盤を弾いた音をスピーカーから出したくないときは、ローカルオフに設定してください(☞20 ページ「ローカル・オン / オフの設定」)。
- アコースティック・ピアノと本機の音色を重ねて演奏する。
- 本機の MIDI 情報は消音してなくても送信するので、アコースティック・ピアノの演奏に合わせて、MIDI 情報を送信し、他の MIDI 機器と連係させた演奏をする。

などの利用法があります。
スピーカー付きモデルの場合、本機の音色はスピーカーから出すことができますが、スピーカー無しモデルの場合でも、ライン・アウト端子に市販のアンプ付きスピーカーなどを接続して同様の使い方ができます。

各種メッセージ

エラー表示は、数秒ほどで自動的に消えますが、消えない場合(E05、E06 等)は、[▲] または [▼] スイッチを押すと消すことができます。

E05
999 小節を超えたので、録音を自動的に止めました。999 小節までの録音は残っています。

E06
45000 ノートを超えたので、録音を自動的に止めました。45000 ノートまでの録音は残っています。

E07
ユーザー・ソングの保存領域がいっぱいになりました。不要なソングを消去するか、ソング・ファイルをコンピューターにバックアップをとるなどの作業を行って保存領域を空けてください。

E08
ユーザー・ソングがロードされていないため、実行できません。
エラー“E0b”があるため録音できません。

E09
パラメーター、またはユーザー・ソングのエディットの保存に失敗しました。本機の故障が考えられます。お客様相談窓口にお問い合わせください。

E0A
コンピューターで書き込み禁止の設定がされているソングです。本機で名前を変更して新たなソングとして保存したものはエディットできるようになります。

E0b
ソング・ファイルが大きすぎます。または、互換性のないファイルです。このまま録音しようとするとエラー“E08”が表示されます。

E00...EFF
センサー・エラーです。お客様相談窓口にお問い合わせください。

仕様

音色	8 音色 : ピアノ 1、ピアノ 2、エレクトリック・ピアノ 1、エレクトリック・ピアノ 2、ハープシコード、パイプ・オルガン、エレクトリック・オルガン、ストリングス
音源	ステレオ・サンプリング音源
最大同時発音数	80 音
効果	リバーブ(3 段階)、ブリリアンス(3 段階)
レコーダー	2 パート、1 曲最大 45,000 ノート テンポ、メトロノーム、録音、再生 / 一時停止、停止、パート 1、パート 2
キーボード・モード	シングル
音律	3 種類(平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター)
タッチ・コントロール	3 段階(軽め、標準、重め)
コントロール	[VOLUME] ツマミ、音色セレクター、[SONG]、[REVERB]、[DISPLAY]、[FUNC.]、[▲]、[▼]、[▶/II]、[●]、[■]、[メトロノーム]、[PART 1]、[PART 2] スイッチ
ペダル	ダンパー *、ソステヌート、ソフト * * ハーフ・ペダル対応
接続端子	ヘッドホン× 2、LINE OUT(ステレオ)、MIDI(IN、OUT)、USB
電源	DC12V(付属 AC アダプター)
外形寸法 (W × D × H)	271 × 180 × 63 (mm) 音源ユニットのみ
重量	1.4Kg(音源ユニットのみ)
付属品	AC アダプター、ヘッドホン、CD-ROM、外付けスピーカー(スピーカー付きモデルのみ)

※仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

・Sound Processed with INFINITY™

機能一覧表

メトロノーム機能([ ]スイッチ点滅時)

スイッチ	機能	表示	設定 [初期設定]
■	テンポ	120	4 ～ 120 ～ 250 [120]
PART 1	拍子	4 － 4 (4/4)	1/2、2/2、1/4、2/4、3/4、4/4、6/8 [4/4]
PART 2	音量	100	0 ～ 127 [100]
●	アクセント音	oFF / on1 / on2	オフ、マルカート、ベル [oFF : オフ]
▶/II	メトロノーム音	S1 / S2	振り子音、デジタル音 [S1 : 振り子音]

各種機能 1([FUNC.]スイッチの LED 点灯時)

[DISPLAY] スイッチを押す回数	機能	パラメータ / 値	設定 [初期設定]
0	ソングのコピー	SAv / U01	U01 ～ U99
1	ソングの消去	dEL / U01	U01 ～ U99
2	パート・データの消去	P.dL / ALL、P1、P2	両方、パート 1、パート 2
3	マスター・チューニング	tUn / 40.0	415.0 ～ 440.0 ～ 465.0Hz 0.5 単位 [440.0]
4	音律	ScL / 00、01、02	平均律、ヴェルクマイスター、キルンベルガー [00 : 平均律]
5	ブリリアンス	brL / 01、02、03	暗め、標準、明るめ [02 : 標準]

各種機能 2([SONG]、[FUNC.]スイッチの LED 点灯時)

[DISPLAY] スイッチを押す回数	機能	パラメータ / 値	設定 [初期設定]
0	パート・ミュート・レベル	P.Lv / 30	0 ～ 90 [30]
1	AB リピートのオン、オフ	Ab.r / oFF	オン、オフ [oFF : オフ]
2	AB リピートの A 設定	A / 001	001 ～ 999 [001]
3	AB リピートの B 設定	b / 001	001 ～ 999 [001]

各種機能 3([FUNC.]スイッチの LED 点滅時:長押し)

[DISPLAY] スイッチを押す回数	機能	パラメータ / 値	設定 [初期設定]
0	鍵盤タッチ・コントロール	tch / 01、02、03	軽め、標準、重め [02 : 標準]
1	トランスポーズ	trS / 00	－ 11 ～ 00 ～ 11 半音単位 [00]
2	MIDI チャンネル	Ch / C01	チャンネル 1 ～ 16 [C01]
3	MIDI ローカル・コントロール	L.ct / on	オン、オフ [on : オン]
4	プログラム・チェンジ・フィルター	PC / oFF	オン、オフ [oFF : オフ]
5	コントロール・チェンジ・フィルター	CC / oFF	オン、オフ [oFF : オフ]
6	マルチ・ティンバーのオン、オフ	16t / on	オン (マルチ・ティンバー)、オフ (シングル) [on : オン]
7	USB 接続	USb / oFF	オン (マス・ストレージ)、オフ (USB MIDI) [oFF : オフ]

[デジタルピアノ]
HT-70

MIDIインプリメンテーション・チャート

2008.11.21

ファンクション…		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時	1	1	
	設定可能	1—16	1—16	
モード	電源ON時		3	
	メッセージ	×	×	
	代用	**************		
ノート ナンバー:		0—127	0—127	
	音域	**************	0—127	音色によって受信音域が異なる
ベロシティ:	ノート・オン	○ 9n, V=1—127	○ 9n, V=1—127	
	ノート・オフ	×V=64	×	
アフタータッチ:	キー別	×	×	
	チャンネル別	○	×	*1
ピッチ・ベンダー		○	○	*1
コントロール チェンジ	0, 32	○	○	バンクセレクト(MSB, LSB) *2, 3
	1	○	○	モジュレーション *1, 2
	6	○	○	データ・エントリ MSB *1, 2, 3
	38	○	○	データ・エントリ LSB *1, 2, 3
	7	○	○	ボリューム *1, 2
	11	○	○	エクスプレッション *1, 2
	10	○	○	パン *1, 2, 3
	91, 93	○	○	リバーブ・センド、コーラス・センド *2
	64, 66, 67	○	○	ダンパー、ソステヌート、ソフト *2
	65	○	○	ポルタメント・オン、オフ *1, 2
	5	○	○	ポルタメント・タイム *1, 2, 3
	71	○	○	レゾナンス 1, 2
	72, 73	○	○	EGタイム(リリース、アタック) *1, 2, 3
	74	○	○	ブライトネス *1, 2
	75, 76, 77, 78	○	○	ディケイ・タイム、ビブラート・レイト、デプス、ディレイ *1, 2, 3
	98, 99	○	×	NRPN(LSB, MSB) *1, 2
	100, 101	○	○	RPN(LSB, MSB) *1, 2, 3
	120	○	○	オール・サウンド・オフ *1, 3, 4
	121	○	○	リセット・オール・コントロール *3, 4
プログラム チェンジ:		○	○	送受信値：0、4、5、6、16、19、48以外は内蔵レコーダーのデータのみ、送信
	設定可能範囲	**************	備考欄参照	
エクスクルーシブ		○	○	*5
コモン:	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム:	クロック	○	×	
	コマンド	○	×	
その他:	ローカル・オン/オフ	○	○	録音できません *1, 4
	オール・ノート・オフ	○	○(123—125)	*1, 3, 4
	アクティブセンシング	○	○	
	リセット	×	×	

備考
*1：内蔵レコーダーのデータのみ、送信する。
*2：MIDI フィルターをオフに設定したとき、送受信する。
*3：MIDI チャンネルで設定されたチャンネルは受信しないし、録音できない。
*4：MIDI フィルターをオンにしても、送信する。
*5：インクワイアリーとGMモードオンを含む。GM モードオンは受信、ただし GM 音色 すべてに対応していない。10ch はピアノ音色。

モード1: オムニオン、ポリ　　モード2: オムニオン、モノ　　○: あり
モード3: オムニオフ、ポリ　　モード4: オムニオフ、モノ　　×: なし

アフターサービス

■ 保証書

本製品の保証書は、後日送付されます。
保証書には、取付完了報告書に基づき、所定事項が記入されていますので、「取付完了日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間

取付完了日より一年間です。

■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を提示の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめ（株）消音ピアノサービスへお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、（株）消音ピアノサービスへお問い合わせください。

■ ご質問、ご相談について

アフターサービスや、商品のお取り扱いについて、およびピアノの長期使用につながる適正な使い方、使用後の製品の取り外し、回収、リサイクルに関するご質問、ご相談は、（株）消音ピアノサービスへお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

サービス窓口

コルグ消音ピアノユニット　国内サービス代行店

（株）消音ピアノサービス

フリーダイヤル 0120－614－104

受付時間:月曜～金曜日の10:00～17:00
但し、祝祭日及び毎月第1水曜日はお休みをいただいています。

●お客様相談窓口としての機能と取付認定店（取付認定技術者）様の難修理相談業務を行います。

Hybrid Piano ピアノ音源ユニット HT-70

取扱説明書

KORG

KORG 株式会社コルグ
本社：〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
http://www.korg.co.jp/

2205 EH *Printed in Japan*
Ⓙ③